

かわら版 ”とちぎのまちの駅”

第8号 2004.11.20

発行人 まちの駅ネットワークとちぎ(ま・ね・とち)

吉田 恵子

§ 新潟へ送ろう！ 心のくつした便 §

10月23日の夕方、突然の大きな揺れに身をこわばらせた方も多かったと思います。あの地震の震源地・新潟県中越地域は、ご存じのように甚大な被害を受け、いまなお多くのみなさんが不自由な生活を強いられています。

「新潟のみなさんに元気を届けたい」。そんな思いから生まれた「全国のまちの駅でできること」。それが「心のくつした便」です。

もうすぐ12月。もうすぐクリスマス。心があつたまるメッセージと、ささやかなプレゼントを靴下に入れて、新潟へ送りませんか？

中越地域にも、元気でおもてなしの心にあふれた案内人さんのいるまちの駅がいくつもあります。今回の送り先はそのひとつ「ながおかまちの駅」。窓口になってくれているのは、若い案内人・高橋さん。彼は地域交流センターのまちの駅担当・遠藤さんとともに、「心のくつした便」の発案者です。高橋さんは10月の宇都宮でのまちの駅総会でも、第2分科会のコーディネーター役として大活躍でした。

同じ日本で、同じ時に、同じ「まちの駅」の看板を掲げているのも、何かの縁。みなさんの「心」を新潟へ。ご協力、よろしくお願いします。

§ まちの駅大使 新潟・中越地域へ行く §

大平町の「香秘と芸術と人の駅」には「まちの駅大使」として活躍するお客さんがいます。11月3日、大使の天谷さん、椎名さんが、駅長の山根さんご夫妻、茨城県結城市の「大人と子供の遊学の杜駅」の駅長・鮎沢さんとともに、中越地域へボランティアに行きました。駅に寄せられたたくさんの救援物資は、震度7だった川口町へ。

10月の総会で、長岡市の案内人・高橋さんと出会ったことが、今回のボランティアのきっかけの一つだそうです。

「どん・どんつながるまちの駅」物語は、太鼓イベントの後もまだまだ続いているんですね。

「かわら版」へどん・どん情報を送ってください。お待ちしております。

E-mail : manetochi@mbn.nifty.com Fax. 028 - 622 - 8501